

<農業生産条件の強化（自己施工）に取り組む事例>

○自己施工で農道コンクリート舗装

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	愛媛県西条市 <small>さいじょうし</small> 河之内大掛 <small>かわのうちおおがけ</small>			
協定面積 5.4ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地
	水稻			
交付金額 114万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員手当		3%
		農道・水路改修費		31%
		景観活動費		2%
その他			14%	
協定参加者	農業者 17人、農業者以外 1人			開始：平成12年度
人・農地プランの作成状況	集落全域で作成済			

2. 取組に至る経緯

河之内大掛集落は、水稻を中心とした水田地帯であるが、近年では農業者の高齢化（協定参加者 65 歳以上が約 70%）、担い手不足など、農業生産活動の維持が困難になることが懸念されていた。このため今後の農用地の管理、営農活動の継続について話し合い、集落ぐるみで次世代へつなぐことが必要と考え、平成 12 年度から中山間地域等直接支払制度に取り組み、農業生産活動の維持等を行ってきたところである。

美しい農村景観を次世代へ継承し、地域農業の活性化を図るため第 3 期対策にも継続して取り組むこととなった。

3. 取組の内容

耕作放棄地の発生を防止し、将来にわたって持続的な農業生産活動等を可能にするため、農地・農道の草刈り、水路の泥上げ等を共同作業により実施している。また、今後の農業生産活動等の継続のための条件整備として、自己施工による農道コンクリート舗装や水路の改修を行っている。

地域の景観にも配慮し、環境美化のためコスモス栽培も行っている。



【集落の風景】



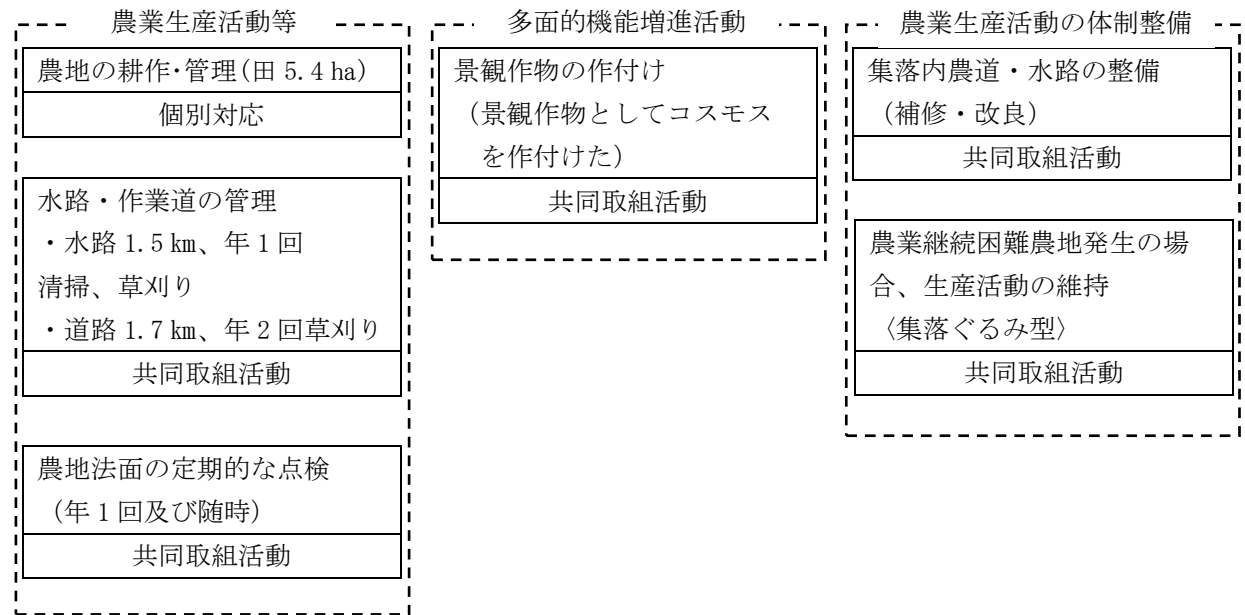
【農道舗装自己施工】

[集落の将来像]

- 地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備を進める。
農道等の整備を行い、高齢者への農作業の負担軽減を図り、持続的な農地の維持管理へと繋げていく。

[将来像を実現するための活動目標]

- 協定参加者で農道・水路等の管理作業を行い、農地保全を図る。
- 農業の継続困難な農地が生じた場合に備え、サポート体制を維持する。



4. 今後の課題等

農業生産活動等の体制整備として取り組んでいる農道や水路の整備が、耕作放棄地の発生防止につながっていると思われる。共同活動を通して集落を守っていく意識が高まっているが、協定参加者の高齢化のため後継者、新規就農者の育成・確保が急務となっている。また集落内外の担い手農家などへの農作業委託も視野に入れて、農地を守っていくための活動が必要である。

[第 2 期対策の主な成果]

- 農道・水路の維持管理の実施 (効果：農作業の効率化)
- 農用地保全に向けた農道のコンクリート舗装整備 (自己施工)
- 離農等による耕作放棄地の発生防止